

「郡山市ゲリラ豪雨対策9年プラン」の雨水貯留施設が完成すれば、川の水が溢れても大丈夫ですか？

この雨水貯留施設は、川から溢れた水を貯めるための施設ではなく、短時間に狭い範囲に強く降る「局地的大雨（ゲリラ豪雨）」により雨量が一時的に下水道の排水能力を超えることで発生する内水氾濫に対し効果を発揮します（74mm/h（23mm/10分）の雨に対し床上浸水被害を軽減）。

川の水が溢れないようにするため、河川管理者が河道掘削や堤防整備を実施しています。

対策の目標

平成22年7月6日の実績降雨
最大時間雨量：74mm/時
10分最大雨量：23mm/10分
床上浸水 62戸 床下浸水141戸

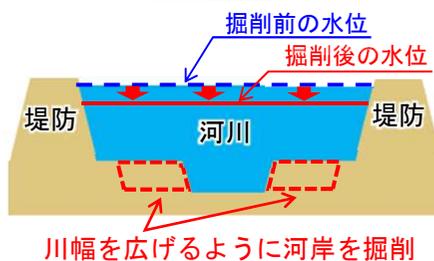
同じ雨が降っても床上浸水が発生しないように雨水貯留施設を整備



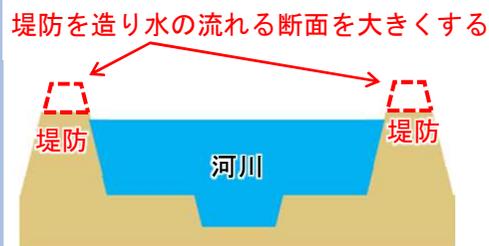
駅前アーケード

川の水が溢れることへの対策

河道掘削



堤防の整備

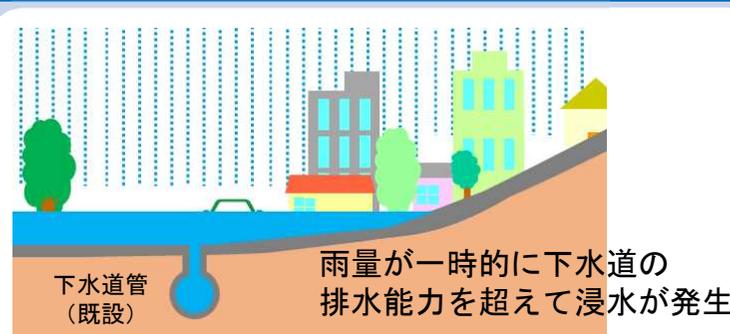


河川管理者が対策を実施

（阿武隈川：国土交通省 逢瀬川：福島県）

雨水貯留施設による効果

浸水発生



対策

